

## NPO 自立支援センター ふるさとの会

2007.9.20  
【第9号】

これはHTML形式  
のMAILです。  
オンラインで無い場合  
は画像が表示され  
ない可能性があります。  
す。

[HOMEPAGE](#)
[SCHEDULE](#)
[EVENTetc](#)

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。

## INDEX

- ① 山谷夏祭り2007の報告
- ② シリーズ事業所探訪 その13 ふるさと入谷給食センター
- ③ 台東区防災訓練に参加しました
- ④ シンポジウム2007のご案内
- ⑥ 職員研修 連続講座

## 1.山谷夏祭り2007の報告

先月8月18日(土)、19日(日)に、ボランティアサークルふるさとの会主催、『NPO法人訪問看護ステーションコスモス』および『善意銀行友の会』のご協力により、『第31回山谷夏祭り』を玉姫公園にて開催しました。

事前の12日には、高校生を含めた学生や社会人のボランティアのみなさんが中心となって、アウトリーチ活動・広報・金券配りを行いました。早くも、路上生活をされている方々の夏祭りを楽しみにしているという声をあちこちで聞かれました。

今年の夏は記録的猛暑日が続きましたが、当日は16時の開場と同時に、高野山東京別院の僧侶を招いての無縁仏供養が行われ、お祭りの中にあっても、厳粛な雰囲気になりました。

また、炊き出しのカレーライスを始め、たくさんの方にお集まりいただき、2列に並ばれて混乱もなく炊き出しがスタート。「ふるさとのカレーライスはうまい」という評判があるようで、手前味噌ですが、参加者の方々からたくさんのお礼のお言葉をいただきました。炊き出し数は2日間で約1500食になりました。

ステージでの演目を楽しむ方、屋台料理片手に、久しぶりに会う仲間との語らいに花を咲かせる方、一時の涼をとられる方、参加者それぞれが思い思いの夏祭りを楽しんでおられる光景がそこにはありました。

先月号でホームレス支援ネットにいがたのTシャツプロジェクトの記事を掲載致しましたが、当日はNPO職員のボランティア参加を含め、連日約40名近いボランティアスタッフがこのふるさとの会オリジナルTシャツに袖を通し、運営、進行等を行いました。スタッフ一人一人がこのTシャツに誇りを感じつつ、各持ち場で、時には協力し合いながら、参加された方々の良い思い出になる様に動き回りました。また夏祭りの舞台設営、解体の一部、当日の準備、清掃は、就労支援と住居保障を目的に設立した株式会社ふるさとの就労メンバーが行い、今後のスキルアップの良い足がかりになりました。

改めて、夏祭りにご協力、ご参加いただいた皆さま方、ありがとうございました！

(羽鳥竜生)





## 2.シリーズ事業所探訪 その13 ふるさと入谷給食センター

各宿泊所が毎日お世話になっている、ふるさと入谷給食センター。わたしも常々どんな所か興味を持っていましたが、今回はここをご紹介します。

場所は昭和通りから少し入った、住宅地や商業施設が混在する地域に位置し、建物は少しレトロなビルで、その1階部分にセンターは入っています。センターに入ると職員の佐藤さんが出迎えてくれました。そのまま施設を見学させてもらいます。

さっそく厨房ですが、広さはざっと120平米、かなり広々とした印象を受けました。もとは菓子の製造所だったのをリフォームして使っているそうで、業務用のコンロや冷蔵庫、作業台が整然と並んでいます。そして掃除が行き届いているので、非常に清潔でした。次に厨房の奥へ進むとゴミ置き場、さらに進むと従業員のロッカー室があります。これらの設備も非常に整頓が行き届いています。

ここで気づいたのが、厨房とそこ以外を分ける明確な線が引かれていることです。物理的に部屋が分けられているだけでなく、そこで働く人たちの間に、衛生面の配慮から、厨房の中と外ではっきりと線引きをしようという意識が感じられました。例えば厨房には、私物など不要なものは一切見られません。気持ち良いくらいにこれは徹底されていました。

続いて事務室(ここも非常に整頓されていました)に行き、佐藤さんと昼食の配送から戻った村上さんからお話を伺いました。

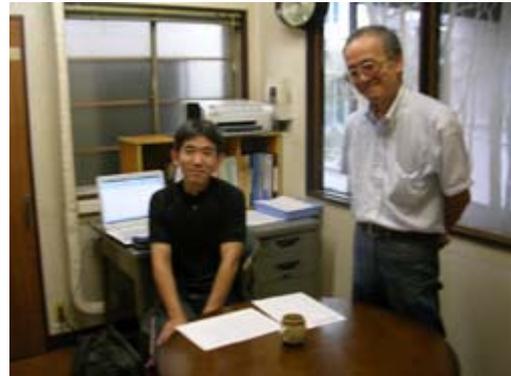
給食センターは平成17年12月22日に設立され、現在は正職員1名、非常勤職員1名、パート職員7名が在籍し、職員と非常勤の2人が配送、発注や管理業務を受け持ち、調理師免許保有者を含むパートの7名が調理を受け持っているとのこと。通常は管理に1名、調理に3名の4人体制で、1日およそ600食弱を調理し配送しているそうです。給食センターには「より安全で安心したおいしい食事を目指す」という標語があり、村上さんは「これにつきます」と真剣な表情で仰っていました。今後の課題については、「自前献立を作れること」を二人とも挙げました。現在献立は、食材納入元のマルコ食品の提案によるもので、これをふるさとの利用者により合った献立にしていきたいと二人は言います。これには具体的に栄養士の有資格者が必要になってくるのだそうです。たしかに利用者さんの身近に栄養士がいて、ニーズにより合った献立を提供できるのが理想的です。

さて、私は10時半ころからお邪魔していたのですが、一通りお話を伺った後、期せず昼食を御馳走になってしまいました。この日の献立はポークカレーにツナサラダです。感想、美味でした。何故ならば、非常に清潔な厨房で手際よく働くプロたちの姿を見たすぐ後でしたので。

(辻 真)



清潔で広々とした厨房



熱心に語ってくれた村上さんと佐藤さん

## 3.台東区防災訓練に参加しました！

ふるさと千束館担当の柴山です。残暑が続くなか地域で行われた防災訓練に参加しました。

9月2日(日)台東区総合防災訓練。9月3日(月)吉原公園にて町内会の防災訓練が行われました。台東区総合防災訓練では、吉原公園で初期消火訓練(消火器の使用方法確認)、千束小学校では倒壊家屋の人命救助訓練、墨田公園山谷堀広場で応急救護訓練・ポンプ訓練等と分散型の開催。3日(月)の吉原公園で行われた防災訓練は集中型で開催されたということで、日の出館、あさひ館からも職員が参加しました。

2日間に渡り、地域の方々と汗をかきながら訓練に励みました。初めて地域の防災訓練を体験して、災害が起きた場

合は町内会の方々と協力しあい初期消火や人命救助にあたる必要があります。このような防災訓練・避難訓練を定期的実践することで「地域との連携」・「行動力」・「潜在能力の向上」が高まり、救援体制等の充実がはかれるのではないかと思います。

これからも、千束館内でも訓練を実施したり、地域の訓練に参加してゆくことで、災害時に利用者の方々が安全に避難できるよう努めて行きます。

(柴山健一)



倒壊した建物からの被災者の救出訓練に参加する日の出館の野中館長

#### 4.シンポジウムの準備も着々と進行中

ふるさとの会10・8シンポジウムもいよいよ近づいてまいりました。

パネリスト・基調講演者も確定し、さる9月15日(土)にパネラーのみなさまにお集まりいただき、お互いの顔合わせと事前打合せを行ないました。

シンポジウムの主催であるふるさとの会より代表の水田が開催の趣旨を説明。その後、シンポジウムのコーディネーターである阪東氏の進行により事前打合せを始めました。テーマに沿って、とりわけ「地域における支援システム」をいかに作ってゆくのが主題となってゆくことが確認されました。また、この支援システムが「山谷」という特殊性を背景に実現されるのではなく、一定条件を備えた上でほかの地域においても展開可能なモデルとなるよう検討してゆきたいとの意見が出されました。10時から開始した打ち合わせは、議論白熱のうちに気が付けば12:30となり終了。各パネラーが本日の打ち合わせ内容を持ち帰り、当日に臨むこととなりました。

さて、シンポジウムの申込みについては、会場定員200名に対し、9月19日現在で150名近くの申込みをいただいております。大勢の皆さまにご参加いただき、今回のテーマを共有させていただくとともに、懇親会もご用意いたしましたので、シンポジウムをきっかけにネットワークを広げ、連携を広げてゆく機会として是非ご参加いただけたらと思います。

#### 基調講演者変更のお知らせ

基調講演は厚生労働省地域ケア・療養病床転換室 榎本室長から後任の矢田室長に変更いたしました。予めご了承くださいますようお願いいたします。

#### ～ホームレス自立支援の新たな課題～『社会的入院』問題から居住支援と地域ケアを考える

基調講演 厚生労働省地域ケア・療養病床転換推進室室長 矢田 真司 氏

【開催日時】 2007年10月8日 13時開場 13:30開演 17:10終了予定

\* 終了後会場周辺で懇親会を予定しています

【場 所】 すみだ生涯学習センター「ユートリア」(墨田区東向島2-38-7)

【主 催】 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

【お申込】 FAXまたはEメールにてご連絡下さい。

【お問合せ】 台東区千束4-39-6 ふるさとの会

担当 佐久間・滝脇

電話 03-3876-8150 FAX 03-3876-7950

E-mail [hurusato@d5.dion.ne.jp](mailto:hurusato@d5.dion.ne.jp)



**5.職員研修 連続講座**

去る7月16日、ふるさとの会本部3階研修室にて、NPOの職員研修を行い、わたしもヘルパーステーションふるさとの一員として、参加してきました。約20名の職員が出席し、5人の経営スタッフによる講義を午前と午後に分けて連続で聞きました。

研修テーマは、大きく言って『NPOにおける全人的な支援のために』。対人援助技術などの日常的なケアに関する知識もさることながら、私たちNPO職員に求められるものとして、私たちのいる社会の背景や変化、経済、歴史的な背景を知ることによる、より俯瞰的に現前の貧困問題を捉え、支援に反映していくことも重要であるとして、以下の題材でプログラムを組みました。

テーマ	演題	講師
基調講義	『NPOが取り組むホームレス自立支援事業に特徴について』	水田代表理事
現代経済の動向	経済から見る雇用格差	佐久間理事
新企画の考え方	不動産証券化の時代背景	成清理事
「地域」とは何か	価値が測り直される時代	秋山
	価格基準から社会的基準へ	小林
	差別の民俗学	滝脇
	地域でケアすることについて	古木・滝脇

今回の連続講座を通じ、行政などの行う『公的』な支援を有効に活用することで、利用者への多面的な決めの細かい支援につなげられるかが、NPOの大きな役割であり、その調整能力を固めることへのいっそうの努力が必要だと感じました。

研修終了後、新入職員の歓迎会を開き、給食センターの料理に舌鼓を打ちながら、交流を深めました。(大塚直史)



今回の連続講座は職員の相互の研鑽に役立ちました

いつの楽しい懇親会。今回は新人歓迎会をかねて。

発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会  
 〒111-0031東京都台東区千束4-39-6  
 TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950  
[hurusato@d5.dion.ne.jp](mailto:hurusato@d5.dion.ne.jp)  
 HP : <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>